

新出羽三山周遊記録

出羽三山詣で

・・「西のお伊勢参り、東の出羽三山参り」と古くから言われている。

お伊勢さんには、今年春(2021/5月末)に乗り鉄(紀勢本線)も兼ねて周ってきた。そして、今回の旅も、先月(9月始)の立山登山の帰り、山友のYさんと次は「月山に行こう」と約束し、計画は私に託されていた。

山形県には縁が深い!!

私の趣味となっている「桜追いと乗り鉄ひとり旅」も山形県より始まっている。

その一つ目は、年老いて(1991/4=52歳)の時、元の会社の「特別休暇取得キャンペーン」を利用して

一か月の休みを頂いて(ある意味で、半強制的な福利厚生制度と後継者育成の施策であったと思われる・・)。

そんな中で、自動車免許の取得を思いついた。

全国自動車教習所協会が募集している**合宿**コースを知り、場所は何処でも良かったので、仕事場から遠く、また「**芭蕉の奥の細道**」に縁もある、山形県の最上川河畔に在る、「新庄第一自動車教習所」を選んだ。

宿舎は、陸羽東線の瀬見温泉駅の近くの『**嬉至楼**』という古い温泉旅館であった。

そこから新庄へは教習所のシャトルバスか陸羽東線の新庄駅～瀬見温泉駅を利用して20日間程通った。

休日や、早朝コースの選択日の午後は陸羽東線、西線を乗り回し、芭蕉の辿った奥の細道を回遊させて貰った。

教習では、前半の座学は若い人より良くできたが、実習では、特に**坂発進**で何回もエンストを起こし、苦勞した。

やっと仮免で、最上川沿いを高速で走ったのと、同乗の教官(八鍬先生)が、この近くがNHKの朝ドラ『おしん』の撮影場所であると教えてくれたのを思い出す。

また、瀬見温泉駅前の広場で、土地の人や、駅売店のお姉さんも毎夜のように桜の宴を催し、私も仲間に入れてくれた。

その時観た夜桜に魅せられたのが桜との出会いであり、その後の桜追いに続いている。

教習は最安全コース(25日)を何とか、二十日で終了したので、残り一週間(4/22～4/30)を芭蕉縁の酒田、象潟、鳴子、尿前、山寺、松島、平泉、更に足を延ばして北上展勝地、弘前にまで一人で桜を追った。

大阪に、帰ってみると、**会社も家庭も全然変わっていなかった!!**

「そんなものであろう・・」とつくづく実感した。

この時の一人旅の味を占めたのがその後の放浪壁に繋がっている。

そして、この体験が、私の人生観を大きく変えた。

二つ目も桜である、「日本の桜 100 選」の最後の一か所が「鶴岡城址公園」であった。(2009/4)

その前年(2008/4)、赤湯の「古窯」に泊まって、「烏帽子山公園」、置賜の「さくら回廊」、「久保桜」等を観て、米坂線を経て憧れの「瀬波温泉」に泊まった(この時は、かみさん同伴)。

又、鶴岡には、その後何回か東北桜旅で立ち寄り、赤川や、藤沢周平氏の小説によく出てくる「海坂藩」、内川、五条川の周りを回遊している。

その度に、遠く月山を望んできた。

今回それを登るのである、山友の Y さんに計画を託され、今立案中である。

そして、結果はまた、「セナミ工房』に載せて行く予定である。(as of 09/30)

旅の行程と概要 (メモ、日時はカメラの Exif を参照/転記/纏める)

台風 16 号の進路具合を予想して 5 泊 6 日(10/5~9)の大まかな予定をたてた。

出羽三山詣でと題したが、本命は「月山」登山である。

現地で明日の天気を観て決行はすることにして大阪を発った。

10/5(火)

新大阪(09:33)→東京/東京→新潟/新潟→鶴岡着(16:49)。

(東京と新潟で新幹線を乗り継ぎ(少しの待ち時間もあつたが)、7 時間程で、着いた。)

流石、新幹線は速いが・・・、トンネルも多く、車窓の景色も楽しむ余裕がない、「・・・つまらんね・・・」と何時も思う。

宿は、鶴岡駅前の「ルートイン鶴岡駅前」に三連泊を予約していた。

現地に着いて明日からの天気を調べると、10/7 が良さそうである。

明日(10/6)は羽黒山と出羽三山神社参り、帰りに市内の城址公園、内川と藤沢周平記念館に寄ろうと決めて、夕食は近くの居酒屋「目利きの銀次」で軽く済ました。

10/6(水)

鶴岡駅前の始発(7:53)を羽黒山山頂行きに乗り、途中の随神門前で降りた(8:40)。

そこから、杉林の山道と石段(2446 段)を登って、山頂の羽黒山神社に着いた(10:30)

途中、「国宝・五重塔」、斉堂、南谷、芭蕉の句碑を拝した。

コロナ禍の為か、中学生の修学旅行の一行に石段の所で追い抜かれた位で、一般の参拝者は少なかった。

山頂の羽黒山神社で友人(S氏)に託された御朱印帖に押印を貰った(¥500)

順番待ちの列には人が無く(私とあと一人の状態)並ぶ必要は無かった。

また、横に出羽三山神社(月山、湯殿山を合祀した)があり、其処でも、御朱印が頂けた(¥1000)

此処で、出羽三山を拝したことになる様に配慮され、石段を登らず山頂までバスも通っている。(信者や観光客に配慮したのであろうが、・・・何時の時代からなのか、芭蕉が歩いた時代と変わり、ビジネス的で、果たして、後利益は・どうであろうか・・・)

山頂の茶店で休憩を兼ねて、昼食(うどんと**玉こんにゃく**・)を食した。

私は、羽黒山の山頂標識に拘り、茶店の人に聞いたが、分からず

山頂駐車場の横の少し小高くなっている処だろうと思ったが、柵があり、登れなかった。

また、展望台にも足を運んだが、小雨と霧で月山を望めなかった。

下山バス迄時間が有ったので、茶店でタクシーを呼んで貰って下山し、出発点(隋神門前)で降りた。

Yさんが(少し疲れたようで)、バス停横の喫茶店で休んでいる間に、私は近くの「**いでは**観光センター」を訪れて、明日からの月山・湯殿山登山の情報を集めた。

係りの方が、いろいろ調べてくれたが、三山神社詣と三山登山(縦走)は異なるらしいと分かった。

「特に湯殿山神社本宮は山頂ではなく、谷の中腹にある神域であると言う・・・

「**語るなかれ、聞くなかれ**」と古来より修験者の法式として伝えられている。

松尾芭蕉も奥の細道で湯殿山に拝して(元禄2/8)、

「**語られぬ 湯殿にぬらす 袂かな**」と詠んでいる。

帰りのバスを内川で降りた。

内川、庄内神社、城址公園、藤沢周平記念館と立ち寄った。

公園広場では「庄内神社大祭-(今年は、酒井忠勝公入城400年に当たり)の閉会式を打上げていた。

追手門横でタクシーを拾い(・・・私はこの辺りは何回か来ていて、歩くのは少し難と知っていたので・・・)、ホテルに帰った。

早速、かねて打ち合わせていた羽黒タクシーに電話し、「月山行きを明日決行します、明朝AM06:30にホテル前に来てください」と伝えた。

(なお、タクシー利用には、観光センターの案内に月山8合目行のバス便は9/30

で終わり、タクシー利用しかないとあり・・・、最寄りの羽黒タクシーを知り、予約係りの金丸氏にルート、費用、時間を聞き、(決行日は鶴岡について決めることになっていた・・・)。

夕食は、昨日と同じ「目利きの銀次」で済まし、途中駅中のコンビニで明日の弁当と水を仕入れて、早々にホテルに帰った。

明日の天気は良さそうである !!

10/7(木) 本命の日である

天気はまずまずである・・・

ホテル玄関に羽黒タクシー(鶴岡タクシーに変わっていたので「運転手に金丸さんをお願いしていた 瀬並ですが・・・」と話すと、「社名が変わりましたが、同じですと・・・」と言って無口な運転手が扉を開けたので我々はそれに乗り込んだ。(06:30)

市内を抜けて、山麓のくねくねした単線車道(月山高原ライン有料道路?)を巧み高度を上げて、月山8合目駐車場(1380m)に着いた(07:40)。

--

レストハウス横から少し上って、弥陀ヶ原湿原、木道、無量坂、一の岳、二の岳を巻いて月山9合目(仏生池小屋)に着いた(1740m)。

天気も良くなり、鳥海山、鶴岡、酒田迄もよく見えた、

唯、弥陀ヶ原のお花畑は季節を過ぎて紅葉はこれからの様子であった。

又、タクシーでの高度1300mと八合目からなだらかな登りとはいえ300mを一気に(1600m)登って来たので、足よりも気圧の変化に肺が慣れないのか息苦しかった。

Yさんの顔色が良くないのを心配して、私が先頭に立ってゆっくりと休み休みながら登った。

仏生池小屋からもオモワシ山、行者返し、モックラ坂、大峰を巻いて月山山頂(1984m)の月山神社にやっとたどり着いた(11:30)

ガイドブックによると標準で2.5~3.0hとあるが我々は4.0hを要したのである。

途中の小屋も休憩所も社殿も扉を閉ざしていた。

コロナ禍と季節外れの為か参拝者も少なく、数人の若い登山者が南面の岩陰で昼食を取っていた。

頂上付近は風が強く石囲いの小さな神社と旧官幣大社の石碑が異様に見えた。

神社も社務所も閉まっていたので預かって来た御朱印帖には、賽銭箱前に落ちていた小石の角を使って「月山 2021-10-07」と私が刻した。

辺りを探したが、適当な昼食場所も見当たらず、下山を決めて、牛首・姥が岳・

湯殿山方面への標識に沿って下り、途中(1800m程)の岩陰で少し遅い昼食と小休止をした。(13:00)

この頃なると、下の方からリフトを経て月山に登るパーティ数組、単独、ペアの登山者が登って行った、急に山がにぎやかになった。

食事を終わったところからYさんの顔色が良くなった(気圧のためか、ガス欠のためか・・・(私は食事抜きでも人より鈍感であるので察しが悪い・・・かみさんにもよく言われたなあ・・・))

食事後、牛首までの300mを下り、途中何人かが追い抜いて行ったが、二人の夫婦が我々と前後した、そのうち会話もあり、土地の人らしく聞くとところによると、今朝リフトで上がって月山に登り、帰りは姥が岳を経てリフトで帰るそうたである。(私もこの人について行こう思っていた・・・)

其のうち金姥の分岐点手前に来たので、「右に切ると湯殿山神社にいけますか」と聞いたところ ご主人が・「行けますよ、ちょっと鉄梯子と鎖場がありますが・・・」と言われた・・・

又そんな時、ホラ貝を持った修験者風の男が上がって来たのを見た・・・

・・・私は迷った、

・時計を見ると 13:30

・今日ホテルを出る時は、リフトで下る方を選んでいた・・・。

(その場合、湯殿山へ明日(10/8)来なくてはならない・・・)

・16:00 までに湯殿山奥宮に降りれば、専用バスの最終便(16:30)で参拝駐車場に着ける、そうすると金丸さんが言っていたタクシーに乗れる・・・

・ガイドブックによると、金姥から 100分 で湯殿山に着けると書かれている。

・そうすると 15:30 までに奥宮に着けるのではないか・・・

・下りの梯子、鎖は私には問題ない・・・

・明日の天気は分からない・・・

.....

やがて金姥の分岐点(1640m)に来た・・・

私達(私)は、右に切った。

.....

初めうちは、姥が岳の中腹をだらだらと下り、装束場(1340m)に着いた(14:30)。

・施薬避難小屋もあり、志津方面から月山へのルートになる様だ。

しばらく下ると、鉄梯子と鎖場の連続が続き、100m程稼いだが、それからの下りは丸石の石段、しかも澤水で濡れた、危険極りない、苦難の真に修験道者の修行の坂道(月光坂 ??)であった。

・梵字川のダムサイトに着いた時には、太腿がやられて立ち上がれず、ストックを杖に這うようにして湯殿山神社本宮(1050m)にたどり着いた(16:00)

本宮奥社に上から降りたのである!!。

早速、御朱印を頂こうと、社務所(?)に向かおうとすると、一線が標され、「**素足になり、お祓いをせよ!!**」と命じられた。

お祓いをした後、御朱印帖を預けて、ご神体であるという**熱湯の湧き出る茶褐色の巨大な霊岩**に登って湯を踏んだ、(かつて、何かの本の写真で見た記憶があるが・・・)

何故か、御朱印帖に二ページにわたり達筆な書体文で記帳と印も捺されていた。料金は¥1000と言われて、恐る恐る差し出した。

「不思議なことに、湯の岩に登って、足湯に足を浸したら、何とか歩ける様になった!!」

神社の送迎バスで一般参拝用駐車場までは(歩いて下ると 30 分程かかるが、)神社の専用バス(¥200)を利用できるシステム経営となっている。

最終便(16:30)に載せて頂いて、一般用駐車場のレストハウスに着いた。(16:45)着いてみると、羽黒タクシーが待っていた(運転手さんの顔を見て驚いた、今朝我々を八合目まで運んでくれた・高橋さんであった!!)。

車はくねくねした有料道路、高速道路、国道 112 号、(六十里越街道・??)、**田麦俣**を車窓に見て、何個かのトンネルを抜けて鶴岡市内に入り、赤川に沿って市内に入った。

ここまでくると、昨日も通った記憶があった。

其のうち車はホテルに無事着いた(18:00)。

約束した(?)と思われる料金(¥20000)を差し出すと、既に領収書が出来ていた。別途、高橋さんが有料道路代(¥400)ですと差し出したのでそれを支払い、別にチップとして¥1000 を快く手渡した。

高橋さん(羽黒タクシー)も(コロナ禍で乗客が少ない中で・・・)喜んでいた。

我々も、なんと**好日**であった!!

(**天気にも、人のご縁に恵まれた一日であった。**)

月山と湯殿山を渡ったのである、**三山詣**が**二日**で**達成出来た**ことになる。

ホテルに着いて、一風呂浴びてホテルのロビーで Y さん落ち合い、

又、「目利きの銀次」へ出向いた。(三夜連続であるが・・・)

私は生ビールに加えて「八海山」一合升を追加した。

乾杯!! “**やったぜ、月山**” 満足感とすべてのご縁に感謝、感謝である。

・・・これで所期の目的は達したことになったと安堵した・・・

10/8(金)

お陰様で昨日は天気恵まれ、**月山、湯殿山**神社を縦走出来た。

目的としていた「**出羽三山神社詣**」は無事終わったのである。

今日は、予備に取っていた一日であり、また足の疲れを癒すことも図って**かみのやま温泉**の「**古窯**」を押さえて置いた。

“さて、どうするか”と思ったが、鶴岡駅から少し北へ周って、酒田、余目、新庄、天童、山形、上ノ山とローカル電車を**乗り鉄**することにした。
なお、天童では Y さんが(お孫さんへの土産として)将棋の駒を買いたいと言う希望があった。

酒田観光は、日和山公園、山居倉庫を小雨の中、タクシーと徒歩で周った。
天気が良ければ、日和山公園の展望台から出羽三山が望める様であるが(**看板写真画参照**)、この天気では仕方がない(改めて、昨日が好天に恵まれたことに感謝)。

余目駅に戻り、陸羽西線を最上川に沿って新庄まで上り(途中左手に聳える筈の**鳥海山**は全く見えず、新庄から山形新幹を利用して天童で下車)。

天童では一時間程で将棋教室、将棋会館を探したが、最後に Y さんは駅前デパートで将棋の駒ワンセットを買って求めた。

その間、私は今夜の弁当と地酒「出羽さくら」を買った。

天童→奥羽本線を山形駅乗り換え→**かみのやま温泉駅**に着いた。(16:00)

私は、駅前の観光センターに行き、「古窯」の送迎バスの停車場所を確認、観光案内書、時刻表等を入手した。

その時、親切な係員が観光協会が運営している蔵王エコー・ラインバスがあり、古窯横からも乗車できると教えてくれた。

古窯の送迎バスに乗客 4 人程が乗り、葉山(**赤湯温泉**)方面へと少し登って大きな旅館の玄関に着いた(16:40)。

流石に「**日本の宿・古窯**」と言われる格式高い老舗旅館であった。

ロビー、廊下には、著名な政財界人や芸能人のサイン入りの楽焼皿が陳列に飾られていた。

係員のサービスは行き届き、少しおせっかいが過ぎると思った。
自慢の大風呂、露天に入り、部屋に帰ってみると、寝具一切が整えられていた。
事情(地域振興割引等・・・夕食抜き予約にさせられた)があり、夕食は付いてなかった。

私は、天童駅で、「**上等米沢牛・中央盛り**」弁当と地酒「出羽さくら」の箱酒を買って持ち込んでいた。

それを Y さんと分け合って部屋でゆっくりと食した。
(術後で食事に少し時間がかかる Y さんにはこの方が、フルコースの懐石よりゆっくりと食べられると思って・・・)・・・

ある意味で、これで良かったのかもしれないと思った。

ただ、料金は一泊朝食付き (¥27500) はビジネスホテルの四倍以上であった・・・

10/09(土)

この日の予定は、計画外であるが、此処からは蔵王に近く、ケーブルカーで殆ど頂上まで上れて、有名なあのお釜も 30 分程で見られると言う案内書と観光協会の教えに従って。(昨夜 Y さんにこの予定を話し、時間が有れば山寺を参拝して仙台でもう一泊することを告げた。)

朝食、チェックアウト後、観光センターで教えて貰っていた古窯横のバス停でグリーンエコーバスに乗った (09:11)

バスは、駅経由、蔵王山系の山麓を休暇村、観光キャンプ場等に寄りながら蔵王エコーラインを登り、蔵王刈田リフト下の駐車場に着いた。(10:15)

ケーブルに乗る頃より小雨模様の霧が出て、寒さが感じられたので、用意してきた雨合羽を着けてリフトに乗り、10 分程で山頂駅に着いた。

ケーブルを降りた頃よりすごい霧雨で視界が悪くなり、お釜の展望台への表示に沿って少し歩いたが、「**これでは、お釜は観えないだろう**」と中断を決意し、引き返した。

下りのリフトに乗って下る途中より視界が開けてきた(もう 30 分待てばよかったのにもおもったが、・・・)

帰りのバス(11:15 発)は同じ道を下って、途中「**ライザーレストラン**」で 40 分程休憩するように仕組まれていた。

我々も、レストランで昼食(スパゲティ)を食した。

客は数人程で開店休業の状態で、店長が出てきてテーブルをコロナ対策の消毒整備をしていた。

下りのバスは 4 人程の乗客を乗せてエコーラインを更に下って**かみのやま温泉駅**に着いた(12:50)。

なおこのバスは観光振興を兼ねた**無料シャトルバス**であった(ただし、リフトは往復¥800)。

かみのやま温泉駅から**奥羽本線**を山形駅で**仙山線**に乗り換えて**山寺駅**に着いた(14:00 頃)。

私は山寺には数回来ているが、Y さんは初めてとのことでもあり、800 段の展望台に残して、私は更に奥の院までの 1000 段の石段を登って、預かって来た御朱印帖に押印(X3)を頂いた。

奥の院は、お釈迦様と大日如来が別々に祀られていた。
下段途中でYさんと合流して 800 段の石段を下り、途中の茶店で名物の**玉こんにゃく**と地ビールを頂いた。
山寺から、**仙山線**で仙台駅に着いた(17:00)。
駅前に出て、ホテルを探すのに一苦労した、
東北の日没はこの時期早い上に小雨が降っていた中、いろいろな人に聞きながら(・・皆さん親切に教えて下さった。) やっと発見してチェックイン出来た。(18:30 頃)。
思うに、今回の宿は昨夜、古窯から慣れぬスマホで予約し、仙台駅近の広瀬通りの「**R&B**」としか記憶になかった・・
夜の町で、駅前、広瀬通りだけの記憶では、やはり仙台は大都会である(私はこの春にも来ているのにちょっと自負があったのだが、・・)

ともあれ、私が引き受けた今回の旅「**月山登山と出羽三山周遊の旅**」は終わった!!・・

託された、約束は果たせたと安堵した。

Yさんに「**明日からは、自由行動にしましょう**」・・と宣言した!!

10/10 (日)

今日からは**一人旅**なった。

実は、かみのやまの古窯で、私の今後の予定をYさんと話していた。

私は、29年前に20間もお世話になった思い出の瀬見温泉の旅館「喜至楼」に寄って帰りたい・・と。

仙台駅に出てみるとラッキーなことに土日祝に運行の臨時列車「**奥の細道・ゆけむり号**」が待っていた。

ホームには観光促進関連の多くの人や撮り鉄のファンが手旗を持って並んでいた!!(コロナ禍の中、乗客はまばらであったが・・)

この快速列車(09:33 発)は東北本線の子牛田・陸羽東線を古川、岩出、鳴子温泉・新庄駅行きであったが、私は**鳴子温泉駅**で降りた(11:00)。

鳴子温泉からタクシーを相乗りして鳴子峡の紅葉見物に便乗した。

紅葉は少し早かったが、石段を下って展望台まで往復し、大橋の下で写真を頼まれ一枚撮ってやった、代わりに私も一枚撮って貰った。

鳴子峡の帰りはタクシーを呼び鳴子温泉駅に戻った。

途中、**尿前の関跡**に立ち寄り、芭蕉の句碑と関所跡と由来立札等々をカメラに収めた。

鳴子温泉発(13:00) →(県境)/堺田→最上→瀬見温泉駅着(14:00頃)。
瀬見温泉駅(無人駅になり)の周りはずっかり変わり、桜の古木は既に無くなって
いた。
線路を跨いで山中の**古峯神社**に登った(参道は手入れする人がいないのか荒れ
果てていた)。
下山して、国道に沿いを少し下り、最上・小国川の亀若大橋(H26/6改修)を渡り、
瀬見温泉街を歩いて「**喜至楼**」に着いた(16:00)。
待望の懐かしいローマ風呂に入ろうと階下の入り口に行くと「男性:19:00～」と
あり、隣の大風呂に入った。
夕食が付いて無いので、旅館のサンダル履きで周りを散策(義経通り、桜通り、
義経大橋等)
義経・弁慶主従が平泉に落ち延びる時の伝説を観光振興をしている様だが、コロ
ナ禍で客も殆ど見かけなかった。
ただ、今後は豊富な温泉(せみの湯、薬研湯等)や神社仏閣、子宝観音、義経伝説
と・・・静かな環境は見直されるだろう・・・コロナ禍を**コロナ福**にしてほしいと願
った・・・

追伸(補)

瀬見温泉と由来(参照パンフレット等)

かつて、新庄藩(68000石=城主 戸澤盛安/戸澤神社)の奥座敷で栄えたらしい。

喜至楼について

- ・上嶋喜至郎→「**喜至楼**」
- ・気丈な女将さん
- ・カメムシが多く、施設の老朽化が心配される。
- ・文化財的保存価値あり・・・

古い商店街

- ・佐藤酒店
- ・庄内館(寿司)
- ・せみの湯(公衆浴場)
- ・賢い姉妹の写真(後日郵送の予定)

10/11(月)

朝食前(6:30~07:00)に亀若大橋を渡ったすぐ横に在る「**子安観音**」に参る。
再会を願いながら旅館を発ち、義経通りを登り瀬見温泉駅に着いた(07:50頃)
瀬見温泉駅発(08:06)→新庄着(08:30)。

新庄発(09:16)-山形新幹線(つばさ 136)→山形、米沢、福島(11:00)/福島発(11:12)やまびこ接続)→東京着(12:48)/発(13:09)→新大阪着(16:00)。

凡そ、瀬見温泉駅から 8 時間、新庄からは 7 時間程で新大阪に着いたのであるし、行けるのである!!・・

--

・・今回の旅を終わって・・

- ・桜追い、ひとり旅の原点となった瀬見温泉に還ったこと(原点回帰)
 - ・託された、「月山登山」を無事に果たせた。
 - ・全て(蔵王を除いて)が、うまく行った「**神のご加護**」を感じた。
 - ・全てに**感謝**(特に、天気、山の神、山友、そして我が家のかみさんへ!!)
 - ・義経より 840 年、芭蕉より 350 年を経てこれらの地を踏んだのである
- ・・**感無量!!**・・

反省

- ・立山登山(9 月)がうまく行ったこともあり、今回の月山登山を少し甘く観た。標高差 1400m を一気に登って(タクシー利用等)体が慣れてなかった、特に病後の Y さんの肺に負担をかけた。

- ・後でわかったことだが、月山・湯殿山の縦走は**上級コース**であったこと
- また、我々が強行(**敢行**)したコースは修験者の**修行の路を逆走**した様だ・・

- ・ちなみに、湯殿山本宮前から月山への登山口は(湯殿山口)は装束場(施薬小屋)迄は、急な岩坂、鉄梯子、鎖場が続く真に修験場と呼ぶにふさわしい月山登山ルートの一つとされている。

我々は、それを逆に下ったのである。

足や気圧の事を考えると湯殿山口から月山頂上を経て八合目に抜けた方がもっと楽であったと思われるが・・

神様のご加護や人の縁に恵まれ、改めて感謝!!。

追記 (web 記事より転記)

・**月山**は、羽黒山、湯殿山と共に出羽三山をなし、修験道の聖地として信仰を集めている。

山頂に鎮座する月山神社は近代社格制度における東北で唯一の**旧官幣大社**であり、守護神は**月読命**が祀られている。

又、月山山頂からの眺めは、庄内平野はもちろん、鳥海山、朝日飯豊連峰、遠くは岩木山、八幡平までも望まれる絶景である。

また、大きくは磐梯朝日国立公園の特別区域に指定されている。

かつて、松尾芭蕉も登った時、「**雲の峰いくつ崩れて月の山**」と詠んでいる。

出羽三山参りの奥宮参りに修験者に言い伝えられる掟(口伝)に

「**語るなかれ、聞くなかれ!!**」と**言い伝えられている。**

芭蕉も

「**語られぬ 湯殿にぬらす袂かな**」と詠んでいる。

我々の今回の下りは、まさに、語られぬ苦行であった。

終わってみると、神のご加護、山友、地縁と我が家のかみさんに感謝、感謝で一杯である。

以上

今後について(興味ある事、場所)等々

地名、歴史、

田麦俣(集落と散策)、六十里越古道と地形

松尾芭蕉句碑(奥の細道縁)

(再度、奥の細道を読みたいと思った)

出羽三山での**松尾芭蕉**の詠った句・・・

- ・涼しさやほの三日月の羽黒山
- ・雲の峰幾つ崩れて月の山
- ・語られぬ湯殿にぬらす袂かな

酒田にて

- ・あつみ山や福浦かけて夕涼み (日和山公園に石碑あり)
- ・暑き日を海に入れたり最上川
- ・象潟や雨に西施がねぶの花

関所

- ・尿前
- ・鼠が関
- ・親知らず子知らず

年表と行程、古道

- ・芭蕉はどの路を**通**って鶴岡に帰ったのであろうか・・・

(as of 2021/11/6)